

書評

栗林幸夫 監修／小川健二・井筒 睦・関 達夫，成松芳明 編集

胸腹部 CT 診断のランドマーク 急性疾患を中心として

上野 文昭(大船中央病院内科部長)

画像診断に対する健全な姿勢

これだけ医学出版物が多い世の中になると，玉石混淆のなかから光り輝く玉を見つけるのが難しい．臨床医には数多くの書籍を通読している時間がない．そこで筆者は，何を目的に出版されたのかという編集方針をまずチェックする．この度上梓された『胸腹部 CT 診断のランドマーク』と題する書を手にして，その健全な姿勢に爽やかな満足感を覚えた．

多くの画像診断書は単に画像診断法を述べているに過ぎない．本書は，患者を診る思考・行動過程のなかでの CT の位置付けが明確である．診療現場で CT を活用するための画像診断書という骨子が瞬時に理解できた．

信頼できる執筆陣

監修者の栗林教授は，かつて某大学病院での診療仲間であった．彼が画像診断をする際，内科医に対して厳しいが正当な要求をしていたことを鮮明に記憶している．不十分な臨床情報のまま読影を依頼すると叱責を受けることがしばしばであり，詳細な臨床経過を提供すると画像診断が冴え渡った．以来，臨床を熟知した画像診断医を筆者は信頼し続けている．

編著者についても筆者が個人的に，または論文・著書などを通して既知の方々が多い．明確な編集方針のもとに，これらの執筆陣がもてる才覚を発揮した成果が本書である．

教育的かつ実際の

冒頭の総論は臨床における CT 診断に必須の知識

を提供している．医学生・研修医は熟読して正しい知識を身につけたい．経験ある医師は忘れていた，あるいは欠けていた知識を補充する絶好の機会である．

続く各論は症例を通じた CT 診断の実際を，見開き 2 頁にコンパクトにまとめている．診断を考えるうえで必要な臨床情報が記載され，あたかも自分が ER で患者を診ているかのような臨場感がある．CT 所見をパターン認識するだけでなく，動きながら考える診断学がそこにある．

本書は真つちに教育的であるだけでなく，十二分に実務的である．診療現場から画像診断医に対する要望と，画像診断医から診療現場へのメッセージが見事に調和している．

急性期診療に携わるすべての医療関係者へ

CT のある施設で急性期疾患を診る機会の多い研修医や若手医師にとり本書は最適であろう．しかし，CT 診断は機器の改良もあって急速に変貌を遂げている．したがって，経験ある医師も再学習の機会と考えて本書を活用できる．また，構成が明快なため，放射線技師を始めとしたコメディカルにも難解すぎることはない．

本書は，単に CT 診断を理解するためのものではなく，臨床において CT を使いこなすためのものである．急性期診療に携わるすべての医療関係者に広く推薦したい．

(B5 判 144 頁 定価(本体 3,800 円＋税))
(2003 年 金原出版 刊)